

(プレスリリース)

各位

2016年3月25日
Space Apps JAPAN
Space Apps Challenge 東京事務局

NASA Space Apps Challenge 2016 日本国内7都市で開催

宇宙関係のオープンデータを活用するハッカソン「NASA Space Apps Challenge 2016」が、2016年4月23日(土)～24日(日)の2日間、世界100以上の都市で同時開催されます。

NASA Space Apps Challenge (以下、Space Apps) は宇宙関係のオープンデータの活用を目指し、NASA (アメリカ航空宇宙局) の呼びかけにより始まったハッカソンで、2012年から毎年1回4月に開催されています。今年は4月23,24日の2日間、世界約100以上の都市で同時開催し、日本国内では会津、つくば、東京、相模原、福井、宇部、熊本の7都市で開催します。

これまで日本で行われたSpace Appsでは、地球のさまざまな姿を表示できる球体ディスプレイ「Personal Cosmos」、地球に降り注ぐ宇宙線をスマートグラスにARで可視化する「Apollon's Eye」、高エネルギー天体物理現象をプッシュ通知する「のーくり」など独創的な作品が生みだされてきました。

5回目となる今年は、チャレンジテーマに「Aeronautics (航空工学)」「Space Station (宇宙ステーション)」「Solar System (太陽系)」「Technology (技術)」「Earth (地球)」「Journey to Mars (火星旅行)」がNASAによって設定されています。

各会場では4月23,24日に向けて参加者とそれぞれのテーマにおける具体的な課題を募ります。参加者は2日間かけて課題解決のための作品づくりを行います。

優秀作品は Global Competition に進出し、プロモーションビデオによるプレゼンテーションにより世界各会場の優秀作品と創作力を競うことができます。

日本国内の7会場は「Space Apps JAPAN」と称して有志連携し、NASA Space Apps Challenge 2016 の開催を通じて、日本における宇宙オープンデータの活用・ものづくりの活性化を推進していきます。

【本リリースについてのお問い合わせ】

Space Apps Challenge 東京事務局
事務局長 水田、プロモーション担当 多田、横田

メール: spaceappstokyo@gmail.com

Webサイト: <http://tokyo.spaceappschallenge.org/>

NASA Space Apps Challenge 2016 日本国内開催概要

開催日	2016年4月23日(土)～24日(日) (開催地ごとに事前のアイデア発掘イベントを開催する場合あり)
開催地 (予定)	会津、つくば、東京、相模原、福井、宇部、熊本
参加対象	中学生以上の宇宙のオープンデータを使ったソリューションやアプリ・グッズ開発、社会問題の解決に興味のある方。職種は問いません。プログラマーや技術者、研究者を始め、クリエイターや様々な業種のビジネスパーソン、学生など、広い世代・職種の方々が対象です。
参加方法	参加にあたっては次の2つの手続きが必要です。 <ul style="list-style-type: none"> Doorkeeperの SpaceApps JAPAN にある、各都市の参加登録ページで参加登録 https://spaceappsjapan.doorkeeper.jp/ グローバルサイトに参加登録 また、チーム編成後ハッカソン終了までにグローバルサイトでチーム登録をする必要があります。
参加条件	本イベントで作成した作品(文章、図表、CADデータ、プログラム、イラスト等)はオープンライセンスで公開しなければなりません。

国内各会場個別情報および各オーガナイザからのメッセージ

会津

会場	Cloud Camp (クラウドキャンプ) 福島県南会津郡南会津町藤生脳曾根2332番地3 http://www.ewmfactory.jp/aizu/
参加人数	15名程度を想定していますが、柔軟に対応します。
主催	会津大学CAIST/ARC-Spaceおよび地元有志 http://www.u-aizu.ac.jp/research/caist/arc-space/
参加対象	会津大生中心ですが、クリエイターやビジネスパーソンWelcome !
参加方法	右で告知予定 https://www.facebook.com/events/606921166121711/

【会津オーガナイザからのメッセージ】

暖炉の火が揺らめく南会津Cloud Campで皆様をお待ちしております。22晩から宿泊可能で前夜祭の企画もあります。昨年は家族連れ参加も受け入れて、子供達がダンボールで宇宙船を作っていました。前回の様子 <http://www.u-aizu.ac.jp/information/arc-space-1.html>

つくば

会場	宇宙航空研究開発機構(JAXA) 筑波宇宙センター 総合開発推進棟 1階 大会議室 茨城県つくば市千現2丁目1-1
参加人数	30名
主催	Space Apps つくば事務局
イベントページ	http://spaceappstsukuba.tumblr.com/

【つくばオーガナイザからのメッセージ】

茨城県つくば市は様々な研究機関や施設がある研究都市です。つくば会場ではJAXAの大会議室にて、2日間に渡り開催します！関東地方にお住まいの方などはぜひご参加を検討してみてください！

東京

会場	茅場町 共同ビル1F 東京都中央区日本橋茅場町1-6-12
参加人数	100名
主催	Space Apps 東京事務局
後援	準天頂衛星システムサービス株式会社、LODチャレンジ実行委員会
運営協力	株式会社HackCamp
協賛	平和不動産株式会社、ヤフー株式会社、HackCamp株式会社、 HAKUTO、日本アイ・ビー・エム株式会社、株式会社IDCフロンティア、 日本マイクロソフト株式会社、ESRIジャパン株式会社、テルスター、 株式会社伊藤園
イベントページ	http://tokyo.spaceappschallenge.org/

【東京オーガナイザからのメッセージ】

5回目となる東京会場。今年は大通りに面した茅場町共同ビルで開催し、開発中の様子は外からご覧いただけます。審査に合わせて一般参加者によるタッチ&トライも予定。また恒例となったボストン会場との混合チームも結成します。全国他会場とも連携しながらグローバル大会での受賞を目指します。

相模原

会場	青山学院大学 相模原キャンパス
参加人数	30名
主催	Space Apps 相模原事務局
共催	青山学院大学、クライシスマッパーズ・ジャパン
イベントページ	https://www.facebook.com/spaceappssagamihara/

【相模原オーガナイザからのメッセージ】

今まで東京会場の運営を行ってきたメンバーが青山学院大学相模原キャンパスに移籍となり、今年はいじめての相模原会場を準備しています。近くにはJAXA相模原キャンパスや多摩美術大学など宇宙に関わりのある組織や大学も多く、まずは小さな規模から徐々に宇宙好きを集めていきたいと思います。

福井

会場	福井工業大学 福井県福井市学園3丁目6番1号
参加人数	20名
主催	Space Apps 福井事務局
協力	福井工業大学
イベントページ	https://spaceappsjapan.doorkeeper.jp/events/39704

【福井オーガナイザからのメッセージ】

福井では昨年に続き2回目の開催となります。今年の主な会場は福井工業大学で、ハッカソン1日目の最初には、アイスブレイクも兼ねてのあわらキャンパスのパラボラアンテナ等を見学するツアーも計画しています。また、福井県では数年後に県民衛星の打ち上げも計画しているので、県内でも注目が集まっています。

宇部

会場	ヒストリア宇部 山口県宇部市新天町1丁目1-1
参加人数	30名
主催	Space Apps 山口事務局
共催	株式会社アワセルブス 宇部協立産業株式会社
運営協力	Fablab Yamaguchi
イベントページ	https://www.facebook.com/spaceappschallengeYmgc/

【宇部オーガナイザからのメッセージ】

化学工業を中心とした工業都市となっており、高等専門学校、国立大学工学部もあるため、エンジニアの参加が見込まれます。会場となる「ヒストリア宇部」は山口宇部空港からタクシーで10分、宇部新川駅から徒歩10分となっており、県外の方も参加がしやすくなっております。彫刻の町とも知られており、会場から一歩出ると街中に多数の彫刻を見ることができます。

熊本

会場	崇城大学SCB放送局新市街スタジオ 熊本県熊本市中央区新市街4-15
参加人数	20名
主催	TechFesKumamoto実行委員会
イベントページ	http://appleague.jp/space-apps-kumamoto-2016.html

【熊本オーガナイザからメッセージ】

エンジニアも、学生も、ハッカソン初心者も、ハッカソンマスタも、お父さんも、お母さんも、たくさんの人たちに『宇宙』を楽しんでもらいたい。たくさんの人たちに『繋がり』を楽しんでもらいたい。そんな笑顔なハッカソンが待っています。

去年の様子（東京会場）

photo by Akiko Yanagawa, Space Apps Challenge Tokyo Bureau, CC BY.

アイディアソン（2015年3月29日、デンソーITラボラトリー）



イベント概要や宇宙データについての説明でスタート。



HackCamp矢吹氏のファシリテーションによりアイデアを膨らませていきます。



各自のアイデアを交換し、ハッカソンに向けた最終的なアイデアに仕上げます。

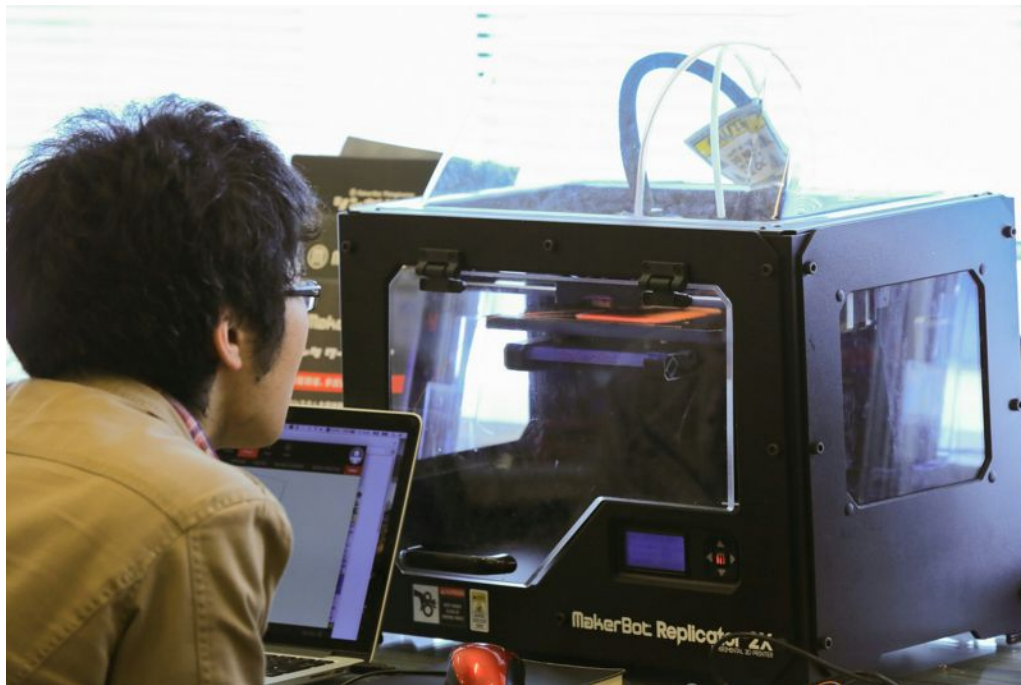
ハッカソン（2015年4月11-12日、DMM.make AKIBA）



アイデアソンで出てきたアイデアをおさらいし、チームビルディングを行います。



チーム毎に島を作り開発・制作作業を進めます。



DMM.make AKIBA の設備環境を活かし、3Dプリンターを使って作品を作るチームもありました。



最後に成果報告会を行い、各チームの成果物を発表し合うとともに審査によりGlobal Competition 進出チームが決まります。



終了後は懇親会で、参加者同士で2日間の活動を労い讃え合います。



東京では約80名の参加がありました。

関連資料

NASA Space Apps Challenge グローバルサイト(2016年版)
<https://2016.spaceappschallenge.org/>

Space Apps Japan ブログ
<http://spaceappsjapan.hatenablog.com/>

Flickr - International Space Apps Challenge Tokyo
<https://www.flickr.com/photos/95162897@N08/>